

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100610		
法人名	医療法人社団美生会 釧路第一病院		
事業所名	グループホーム さくら苑2		
所在地	釧路市鳥取大通4丁目10番8号		
自己評価作成日	平成27年8月31日	評価結果市町村受理日	平成28年1月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100610-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑は、広く明るい作りで和室もあり、ゆったりとくつろげる空間となっている。また、母体が医療法人の為、健康管理や情報交換の連携体制ができており、入居者一人ひとりの意思を尊重し、家庭的な環境の中で心豊かに暮らし続けるため日々支援を行っている。さらに、町内会や近隣住民の方々との互いの行事や地域活動への参加を通し、地域との関係作りを積極的に取り組んでおり、今後もさらなる交流に努めていこうと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営するグループホームさくら苑2は、同法人が運営するグループホームさくら苑と渡り廊下でつながっており、運営推進会議を始め運営面でも協力した事業展開を行っている。5項目からなる運営理念は本年8月に改定し、職員の提案で順番を定め一番最初に利用者の尊厳保持を掲げ、一人ひとりを尊重した介護の提供に努めている。家族と共に利用者を支えるべく、3ヶ月に一度は家族との面談を実施し、介護計画の実行記録を含めた介護記録を開示して説明し、意向や希望の把握に努め信頼関係を築いている。管理者、職員は介護提供の様々な場面で理念を心に留め、更に、「もし自分だったら」「もし身内だったら」と置き換えて受け止めるように取り組んでいる。基本的なケアの充実を図るとともに、午前中は動きのあるレクリエーション、午後からは静かなレクリエーションと生活にメリハリを付けており、利用者の話を傾聴し一人ひとりに合わせた個別対応にも積極的に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々職員が理念を意識し、生活の中で実現可能な目標をケアプランに盛り込み支援を行っている。	運営理念は玄関、事務所に掲示するとともに、2～3ヶ月に一度は職員会議で確認している。現在、更に理念を具体化すべくユニットケア目標を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の盆踊りの会場設営やゴミの一齐清掃に参加する等、地域の人達との交流が深まるよう取り組んでいる。	町内会に加入し、清掃や総会、忘年会に参加して、事業所の理解に繋げている。盆踊りの会場設営を手伝うなど地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所にお住いの方々と共に生活していけるよう町内会の行事、作業に参加し、認知度は定着している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議で活動内容やユニットでの問題を報告し、委員の有益なアドバイス、情報交換等が出来ている。	2ヶ月に一度偶数月に開催し、活動報告、質疑応答などを行い、話し合いの内容を運営に活用している。家族全員に声を掛け参加を促している。議事録は玄関に置いてあり、職員には会議時に内容を伝え情報共有に努めている。	今年度は民生委員の参加を得ているが、利用者家族、地域住民の参加が少ない状況となっている。今後、家族、地域住民などの参加を促す工夫と、議事内容を家族と更に共有する取り組みの検討を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターが中心となり、地域のグループホームのサービス向上に向けた取り組みを積極的にしている為、今後も一緒に進めていきたい。	行政との連絡は主に施設長が担っており、報告や情報交換に努めている。運営推進会議に地域包括支援センター職員の出席を得ており、生活保護課などとも連携し、サービス向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない意義を全職員が研修等を通じて理解しており、身体拘束のないケアを実践している。ただし、転倒のリスクの高い入居者には本人やご家族と相談の上、ベット柵の設置の同意書にサインを頂き、ベット柵を使用している。	職員は、外部研修への参加や内部研修を随時開催して身体拘束の及ぼす弊害について学び、理解している。言葉による拘束のスピーチロックについても職員会議で確認し、職員が互いに気を付けながら拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に最低1回はこうしたテーマの講習会に積極的に参加して理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会に積極的に参加し、その講習会での内容についてスタッフ会議や職員同士の日々の関わりの中で周知して活かしていけるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書などに入居者の権利や義務をわかりやすく明記し、入居前に十分な時間をかけて説明を行い、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族等からの意見については、受付した職員が「苦情ノート」に内容を記載し、迅速に管理者に報告しており、管理者もその対応について「苦情ノート」に記載し、全職員に周知している。	毎月事業所便りを発行し、家族に様子を伝えていく。3ヶ月に一度定期的に家族との面談の機会を持ち、介護計画の確認や希望・要望の把握に努め、介護サービスに反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などを通して職員が常に意見や提案を言えるようにしている。	管理者は月に一度の職員会議時に多くの意見や提案が出るよう努めている。また管理者、サブリーダーが中心となり、日常的に職員の意向把握に努め、必要があれば施設長に伝えている。職員は研修、行事、環境、食事などの係を担当する中で主体的に行動し、モチベーションの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力・努力を出来る限り正当に評価出来るよう努めており、面談や日々の関わりの中で実際に入居者と関わっている職員の意見を可能な限り取り入れるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年開催されている各研修にもそれぞれの能力や希望等を考慮した上で参加させ、その結果を会議で発表し、全職員で情報を共有できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	釧路地区グループホーム協議会に入会しており、同協議会の開催する交流会や勉強会に参加させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から状態を十分にヒアリングし、可能な限り要望に沿った支援をする様に、また入居後も安心して頂ける様な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から状態を十分にヒアリングし、可能な限り要望に沿った支援をする様に、また入居後も安心して頂ける様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、ご家族の意見を十分に尊重し、適切な支援やサービス利用が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご飯支度や裁縫などそれぞれの入居者が覚えている事、得意な事について継続して取り組んで行けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に一度ご家族との面談の場を設けて協力して頂くことは積極的にお願いし、入居者の変化への対応もご家族と共に解決するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに入居する事で馴染みの関係が崩れない様に可能な限り支援しており、ドライブで自宅周辺まで行ったり、馴染みの店に行ったりしている。	介護度が高くなるにつれて馴染みとの関係が薄れていく傾向にあるが、馴染みの地域へのドライブや買い物など、利用者のこれまでの関わりを大切にしたい支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、花の水やりや食事の盛り付け、お茶入れなど各入居者に役割を持って頂き、入居者同士が関わりあえるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される際にも退去後も必要に応じて可能な限り相談、支援できる旨をしっかりと説明して安心して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前や入居後の日々の会話の中で入居者一人ひとりの要望を把握できるように考えて接する事を心掛けている。	職員は様々な場面で利用者の言葉に耳を傾け、利用者の思いや暮らし方の希望・要望の把握に努めている。また、情報を共有し、実現に向けた取り組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族とのヒアリングの中で生活歴や生活環境の把握を行っている。また、すでに介護サービスを利用していた入居者はその事業所と連携して経過の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の食事量、水分摂取量は集計表にて随時把握しており、活動内容も業務日誌に記録して継続的な把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングやサービス担当者会議、本人やご家族との面談で現状に即した介護計画を作成できるように努めている。	利用者、家族の意向を把握し、関係者の意見を参考に状況に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っている。介護記録にサービス目標を記入し毎日検証している。更にケアプラン実行表で、実施確認がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来る限り気付いた事はメモし、職員が常に情報を共有出来る様に連絡ノート等を有効活用している。これらを基に日々のケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良を訴えられた入居者をご家族の希望により、母体の医療法人に通院、介助するサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種訓練や地域活動に地域の方々の協力を得ながら参加、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人の為、定期的な健康診断や訪問看護など適切な医療を受けられる体制を整備しており、情報交換やアドバイスなど迅速に対応している。	母体の病院が隣接しているため利用者の多くがかかりつけ医としているが、これまでの病院との関係も継続している。3ヶ月毎の定期検診や月2回の訪問看護師による健康管理が行われ、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化を訪問看護師に相談する体制は十分に整っており、都度適切な看護が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際、入院先の医療機関と介護添書などで情報交換を密に行い、退院に向けての支援体制の拡充を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	定期的な面談の中で重度化した場合や終末期のあり方についてしっかりと話し合い、十分な方針の共有が出来ている。また、母体である医療法人からの支援も受け、不安のない体制を確立している。	重度化した場合や終末期のあり方について利用者、家族と話し合いを持ち、意思を確認している。これまでは、最終的には隣接する母体病院への入院を希望されていたが、現在グループホームでの看取り希望があり、マニュアルの整備に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年講師を招き、講習会を実施しており、マニュアルも作成して体制を整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回最寄りの消防署員が事業所に来て防災設備の取り扱いや避難訓練を実施している。また、救命救急講習会は地域住民も参加して協力を得られるよう働きかけている。	消防署立ち合いの下、年2回避難訓練や自主訓練に取り組んでいる。同じ地域に消防署があり、何かあった時にはすぐに駆けつけて貰えるようになっている。事業所では、職員による消火機器の取り扱いや、手順の確認などを重視した訓練に取り組んでいる。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導や失禁対応、汚物処理などは他入居者に気付かれない様に十分配慮して行っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを傷つけない支援を行っている。呼びかけは苗字にさん付けとし、排泄誘導、おむつ交換などは他の利用者に気づかれないよう自室のトイレへ誘導し適切な対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとり自分で決めたり表したりする場面を尊重して支援しており、待つ場面や選んでもらう場面を増やしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	生活リズムを配慮しながら起床、入浴、食事にかかる時間など本人なりのペースで行えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる入居者には自分で服を選んでもらっており、髪の流れや髭剃りなどもその都度声掛けをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話やご家族から好きな食べ物や食べたいものを聞き取り、献立作りや買い物、盛り付け、配膳、片付けを可能な限り一緒に行っている。	献立は担当する職員が利用者の好みや希望を考慮して作成し、利用者と共に買い物に出かけている。誕生会には好みの物を用意してお祝いしている。調理する時は極力形状を変えずに食べやすく提供できるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて食事・水分摂取量をチェックして摂取出来る様に支援している。特に水分は不足がちな傾向にある為、水分補給ゼリーや好みの飲み物を随時提供するように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けや見守りに重点を置き、出来ない方にはコップと洗面器を用意してうがいをして頂くよう促す等個別の対応をとっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	紙オムツ着用の入居者は時間や本人の状態を見て随時交換するように心掛けている。尿取りパットや紙パンツ着用の入居者も同様に時間や状態を見て随時トイレ誘導をして対応している。	これまでは排泄時間を記録し時間での誘導を行ってきたが、現在は一人ひとりのパターンを把握しサインを見逃さないよう見守りながら取り組んでいる。トイレは各居室にあり、他の利用者の目に触れずに支援できるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品などを出来る限り摂取出来るよう工夫しており、施設内の歩行運動など軽い運動も実施、全入居者の排便チェックも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの性格を把握し、入浴時間や入浴日を可能な限り入居者の希望通りに設定して支援している。	週2回の入浴を基本とし利用者の体調を考慮しながら希望に沿った支援に努めている。状況に合わせて2人介助での対応を行っている。入浴時はゆったりと会話ができる時間となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない入居者には原因を探り随時解消に努めており、日中適度な疲れが得られるような支援等を行っている。また、休息についても休みたい時に休める様に声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から処方された定期薬や臨時薬を個別にわかりやすく管理し、目的や副作用についても理解している。また、服薬の記録は個人ごとに管理し、誤薬が無いように十分注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌番組のビデオ鑑賞やカラオケなどそれぞれの入居者の趣味、嗜好にあった活動を支援している。また、散歩やドライブなどの外出支援にて気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者本人の希望や体調を考慮して買い物、散歩、ドライブなど可能な限り、外出出来るよう支援している。また、ご家族との話し合いでご家族が定期的にドライブに連れて行かれるなどご家族との協力体制も確保している。	町内への散歩、ウッドデッキでの外気浴やコーヒータウンなど日常的に外出を楽しんでいる。自然を感じたいという利用者の希望で花見や港へドライブに出掛けたり、賑やかな場所が好きな利用者には大型ショッピングセンターで買い物を楽しんだりするなど、希望に沿った外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望に応じて入居者や職員が管理しており、職員が管理している場合は現金出納帳にてご家族にしっかりと報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、設置場所には椅子を用意しており、落ち着いて電話が出来る様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには和室、ピアノ、廊下に長椅子、窓際に椅子とテーブルを設置し、どこでもくつろげる空間を演出している。また、ウッドデッキや苑内にて季節の花や野菜を栽培して季節感も感じて頂ける様に演出している。	建物はゆったりとした回廊式で作られており居間も廊下も広く設計されている。居間には和室の小上がりがあり、また多くのソファが配置され寛げる空間となっている。季節の飾りつけや行事の写真が程よく飾られ、楽しく、居心地良く過ごせるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、和室、廊下の長椅子やテーブルと椅子など入居者がお気に入りの場所で過ごせたり、過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具や思い出の品、大切にしているものなどを入居者本人やご家族と相談しながら持ち込めるように支援している。	一人ひとりの居室にはトイレと洗面台、クローゼットがあり、ベッドが用意されている。その他使い慣れた筆筒や鏡、テレビ、冷蔵庫を配置し、家族の写真などを飾り居心地良く生活できるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場到手摺りを設置しており、入居者の状況を考慮し、居室内にも手摺りの設置や車椅子を使用歩行する動線には物を置かないよう工夫している。		